

## 平成20年度 9月分NGO相談員事業従事報告書2

### ●今月の照会・相談対応全体に対する所感等(注:具体的に記載して下さい。)

今月は、仙台市や秋田市への出張業務を行ない、大学生を中心とした若年層への相談を行った。東北各地で大学生の国際系サークル・個人に活発な動きが見られ、将来の国際協力の人材として有望であることから、今後も継続的に支援を行っていきたい。また本年は、各地の関係者との関係作りを積極的に進めてきたが、そのネットワークからのNGO相談員への依頼も増えてきており、相談員制度の周知も広がってきていると思われる。

### ●今月貴団体が対応した照会・相談のうち、特筆すべき照会・相談事項を3件記載下さい(3件以上ある場合、追加して記載下さい。)

1	カンボジアの貧困層の社会福祉について
相談内容	大学教授からの相談。 社会福祉のセミナーで、国際協力の講義をしている。次年度のセミナーのテキストを現在準備しており、カンボジアの農村の貧困層について、社会福祉の観点から話を伺いたい。
対応内容	IVYの活動地などの例を挙げて、カンボジア農村の貧困層について説明。 内戦後の難民の帰還時に、政府の政策に不備があったことが貧困層が発生した要因の一つ。帰還が遅かった世帯に不利な土地が割り当てられ、また家族数に応じて土地が与えられたので人数が少ない世帯が不利になった。加えて、牛が買えない家庭や母子家庭はさらに貧しくなった。そのような家庭は、栄養失調、教育が受けられないなどからさらに悪循環に陥る。政府は一日0.5ドルの収入向上を掲げたが、NGO頼みが現状。地方分権は地区単位で相互扶助による福祉向上の成果
特筆した理由	①他地域から相談者が来訪し、時間をかけて対応した相談案件であったため。 ②当団体の海外での知見を活かして対応できた案件であったため。
2	国際理解教育パンフレットの広報活動について
相談内容	地域の国際交流協会からの相談。 学校現場で、国際理解教育／開発教育の授業を行う外部講師の情報とその内容を集めたパンフレットを作成した。地域のNGOや元青年海外協力隊員、在住外国人などを派遣するもの。このパンフレットの広報活動をどうしていったらよいか、一緒に考えてほしい。
対応内容	1. 学校に1部ずつ配付したとしても、授業をしている先生方の手に届く確立は低いので、校長会や教員セミナーなどで説明の時間を設けてもらうよう働きかけが必要。 2. 11月に行われる協会主催の国際理解教育実践セミナーで説明を行う。その際にパンフレットの中で行われている授業を実際に行い、パンフレットの活用例を提示する。
特筆した理由	①このパンフレット作成には当団体も関与しており、積極的に協力していく予定であるため。 ②パンフレットは地域の関係団体が連携して製作したものであり、山形では画期的な試みであるため。
3	洞爺湖サミットについてのセミナーについて
相談内容	仙台のNGOからの相談。 今年7月に開催された洞爺湖サミットを振り返り、市民活動について考えるセミナーを企画している。11月に仙台で活動するNPOが連携し大規模なキャンペーンを行うが、そこで開催する予定。講師の選定や、セミナーの内容などについて、相談に乗って欲しい。
対応内容	北海道の市民団体に講師を依頼し、サミットを市民団体としてどう受け入れ、活動を行なったか、経験談を聞くというのはいかがでしょうか。仙台も政令指定都市として、将来大規模な国際会議を受け入れる可能性もあり、もし仙台でサミットが開催されていたら、市民団体はどういった連携を行えばよいかなどを考えるきっかけとなる。
特筆した理由	①仙台を中心にNGOのネットワーキングや勉強会を企画している団体からの相談であり、今後も連携を深めていくべき団体であるため。